

まちが大変きれいで、日本人は、とてもやさしい

徐さんは、重慶市の外事弁公室（国際交流を担当する職場）で、外国からのお客さんの受け入れなどの事務や英語での通訳の仕事をしています。

重慶市は、中国の中央部に位置し、北京市、上海市、天津市に次ぐ4番目の直轄市で、人口は約3千235万人、面積は約8万2千400平方キロ（北海道とほぼ同じ）。主な産業は、自動車・オートバイ産業、製鉄業、化学工業、ハイテク産業などで、多くの日系企業が進出しています。

徐さんは、日本に来るきっかけについて「職場の上司に研修を薦められ、いろんなことが勉強出来ると思いい、来日を決めました」と話してくれました。

日本はもちろん、外国旅行も初めてのことですが、北海道のことを伺うと「テレビや漫画などで、温泉や海産物（イクラ・カニ）について知っています」と答えてくれました。

登別の印象については、「とても非常にやさしく、どこへ行ってもまちが大変きれいです。重慶市に比べると少し小さなまちですが、施設などには、色々な設備が



備えられています。重慶市では、特に障がい者のための施設が少ないです」と話してくれました。

登別市での一般行政や観光行政研修については、「一般行政研修では、日本人は前もってしっかりと計画を立て、仕事をしています。また、観光行政研修では、地域の方々が協力してごみ拾いをするなど環境を守る意識が強く、市の産業基盤の一つである観光産業を非常に大切にしていると思いました」と話してくれました。

### 徐さんからのメッセージ

中国の国土は、たいへん広く東西南北のそれぞれの町では、街並みや景色が全く違うところが多く、美しいところがたくさんあります。また、おいしい食べ物もたくさんありますので、ぜひとも中国に来て楽しんでください。

登別市での研修は、11月25日までですので、皆さんまちでみかけた時には、気軽に声を掛けてください。



KIRARI

シュ 徐 ジン 菁さん (重慶市)

市は、国際交流事業の一環として、総務省などが行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の重慶市から6月20日に来日、7月27日から登別市での研修を始めた徐菁さんに登別市の印象などをお聞きしました。

研修の経験を、重慶市の発展に少しでも役立てたい



▲重慶市人民大礼堂

▲重慶市中心部

1984年重慶市生まれ25歳  
四川外国語学院卒業。現在、重慶市人民政府外事弁公室に勤める。父と母の3人で重慶市に居住。